

〔県民局便り〕

干拓コントラ(笠岡市)が近代化表彰受賞

備中県民局農畜産物生産課畜産第一班

平成 21 年度（第 49 回）の農林漁業近代化表彰に、飼料生産請負組織の農事組合法人干拓コントラが選ばれました。

干拓コントラは、平成 15 年 11 月に笠岡湾干拓地内の酪農家 5 戸で組織され、飼料用トウモロコシの大規模二期作栽培に取り組み、地域の酪農家に、高品質な自給飼料を安定供給するとともに、干拓地内で生産されるたい肥を有効活用し、資源循環型農業に貢献されています。



表彰式(干拓コントラ代表理事 高田浩さん)

○トウモロコシの二期作栽培

トウモロコシは、飼料作物の中で最大の栄養収量を誇り、粗飼料の王様と言われるばかりか、多肥作物で環境保全に寄与する面もあり、最近、改めて注目されつつある飼料作物です。

実は、岡山県のトウモロコシ作付面積（663ha：「農林水産統計」H21. 4. 20 公表）の半分以上を干拓コントラ（361ha：H20 実績）が占めているのです。

当時、温暖な九州以外では行われなかった二期作栽培に取り組むため、補助事業を活用して導入した 503 馬力の 6 条刈りハーベスターを使用して、広大な草地で効率的に収穫しています。

また、日本ではあまり例のない不耕起栽培にも取

り組みはじめ、非常に短時間で播種ができ、労働生産性が著しく向上しています。

一方、トウモロコシを供給された酪農家は、飼料自給率が約 10 倍（供給前：約 4%、供給後：約 40%）に上がり、経営安定と所得向上が図られています。



トウモロコシの刈り取り

○干拓地の環境保全

笠岡湾干拓地では、本県の 1 割以上に当たる約 6,000 頭の牛が飼育されており、従来から堆肥の過剰施肥等が懸念されていました。

そこで、個々の農家が処理した堆肥を搬入、混合、完熟化して、良質堆肥を大量生産するため、補助事業を活用した共同堆肥舎が整備され、生産堆肥を広大な粗飼料基地（県と笠岡市が管理する 382ha のほ場）に還元するシステムができました。

この散布作業を担っているのが干拓コントラで、15.4m³（県下最大）の堆肥散布機を活用し、飼料用トウモロコシだけでなく、牧草生産ほ場や園芸法人が運営するブロッコリーほ場等に散布を行っています。

最近では、園芸法人と連携し、トウモロコシとブロッコリーの 2 毛作りに取り組む等、合理的な運営を行いながら地域の資源循環型農業の確立に努めています。



堆肥散布の様子